

福岡の小中学生ら 波佐見焼に触れる

「海の学び舎プロジェクト」

小中学生が東彼波佐見町で、波佐見焼の生産現場に触れる「海の学び舎 波佐見プロジェクト」が7月30日～8月1日にあり、福岡市と波佐見町の小中学生約50人が、焼き物の絵付けや窯入れを体験した。

福岡市の「山まひなた美術教室」が主催する「海の学び舎」の一環。日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の助成事業として、自然学習と創作体験を組み合わせた合宿などを展



完成した「折鶴焼」を手に記念撮影する児童ら
＝波佐見町湯無田郷、藍染窯

開している。波佐見町を訪れたのは初めてで、同町で地域活性化に取り組む一般社団法人「金量良舎」が受け入れに協力した。

子どもたちは2泊3日の日程で同町に滞在。窯元「藍染窯」で「折鶴焼」の制作に挑戦した。「折鶴焼」は、長崎市の平和公園などに寄贈される折り鶴の再利用法として金量良舎が企画。折り鶴を焼却した灰を波佐見焼の釉薬として用いる。

子どもたちは自分たちで折った鶴を焼いて釉薬に溶かしたり、海をテーマにしたイラストを絵付けしたりして、オリジナルの皿を完成させた。(六倉大輔)